

タイ国におけるCDMプロジェクトに関する調査研究

(報告書の概要)

京都議定書における日本の温暖化ガス排出量削減の約束は6%であるが、第一約束期間終了の2012年には12%強の超過となる見込みである。

CDMは先進国が、後進国で技術と資金の両面で協力して、CO₂に代表される温暖化ガスの削減を実現させると先進国の成果に出来るという地球規模でのメカニズムであり、中国、ブラジル等では盛んに行われている。本調査では、タイ国の省エネルギー基本事項、CDMの現状、省エネルギーへの取組み等について訪問調査し、省エネルギーに熱心な国であるが、CDMはあまり進んでいないという現状を確認した。その中で、CDMプロジェクトテーマを組み立てるべく、タイにおいてCDMに関するセミナーを開催し、関係者の関心を高めた。更にCDMプロジェクトテーマを提案できるように、日本の電線工業会における省エネ事例のいくつかについてCDM化を検討している。

(報告書の主要構成)

- (1) タイ国と日本との協力事業の経緯と現状
- (2) タイ国における省エネルギーの現状
- (3) CDMの目的、仕組み、現状
- (4) 省エネルギーCDMプロジェクトの現状と課題
- (5) タイ国現地調査
- (6) タイ国におけるCDMの現状と今後
- (7) CDMプロジェクトの可能性